

第2章

学研高山地区の役割と まちづくりのテーマ及び方向性

けいはんな学研都市が今後も「持続的にイノベーション[※]を生み出す都市」となるためには、今まで以上に多様性を備える都市となり、従来にはなかった切り口での交流や連携が生まれることが重要な要素とされています。しかし近年、施設立地が急速に進み、土地のストックが減少しているため、機能連携による相乗効果が期待できる新たな施設の導入など未整備クラスター[※]のひとつである当地区の整備促進には大きな期待が寄せられています。

このため、当地区が今後のけいはんな学研都市の中心クラスターとして連携をさらに強化し、まずはけいはんな学研都市が目指す方向性や社会的潮流を踏まえ、その役割を定めます。そして、この役割と奈良県域の建設に関する計画、社会的潮流を踏まえ、大きなまちづくりのテーマを設定し、当地区が目指す方向性を定め、地区全体の大きな目標として共有します。

2. 学研高山地区の役割

『まちづくり編』

役割を定める3つの視点

視点1 「関西文化学術研究都市のクラスター」

国家プロジェクトとして整備されてきたサイエンスシティであり、我が国及び世界の文化・学術・研究の発展に寄与することを目指す。

視点2 「新たな都市創造プラン」

○けいはんな学研都市が目指す都市の姿

- ・世界の知と産業を牽引する都市
- ・持続的にイノベーションを生み出す都市
- ・科学・生活・文化・自然環境が融合する持続可能都市

○ビジョン実現に向けた4つの取組

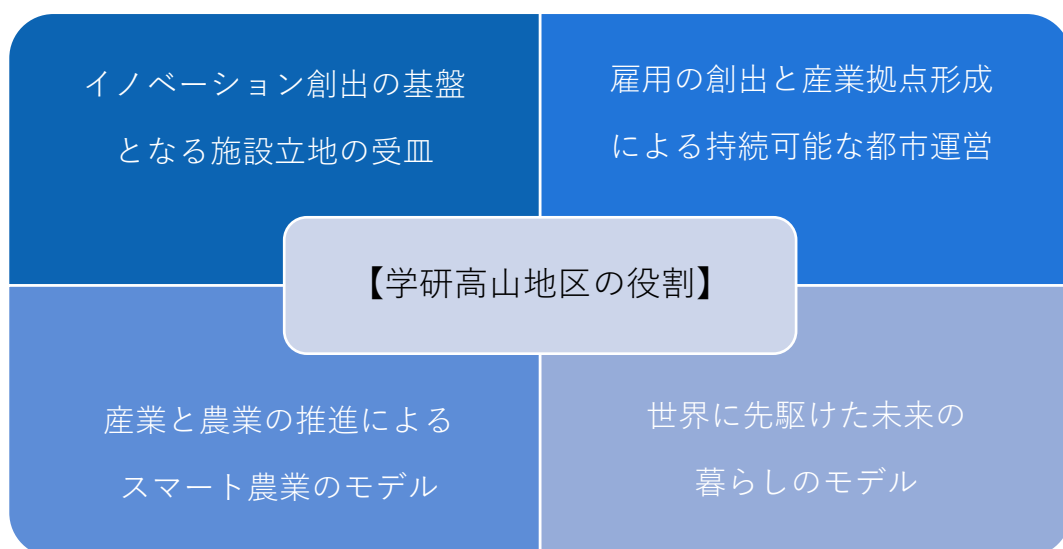
- ・科学技術と文化の融合で知のフロンティアを開拓 文化・学術研究の振興
- ・オープンイノベーション^{*}で世界に展開 イノベーション推進
- ・世界に先駆けスマートな暮らしを育む次世代インフラ整備を促進... 都市形成
- ・相乗効果を生み出すネットワーク型 運営体制の構築

視点3 「社会的潮流」(再掲)

- ・ Society5.0^{*}の実現
- ・ SDGs^{*}の推進
- ・ カーボンニュートラル^{*}の推進
- ・ グリーンインフラ^{*}の推進
- ・ 市街地整備 2.0 の推進
- ・ 新型コロナウイルスがもたらす「新しい生活様式」



■学研高山地区の果たすべき役割



テーマ及び方向性を定める2つの視点

視点1 「奈良県域の建設に関する計画」

- ・奈良先端大学を中心に、主として情報通信、バイオサイエンス[※]、ライフサイエンス[※]、環境、ものづくり、材料等の先端的な科学技術分野を対象とする文化学術研究施設・研究開発型産業施設等の整備を図る。

視点2 「社会的潮流」(再掲)

- ・ Society5.0 の実現
- ・ SDGs の推進
- ・ カーボンニュートラルの推進
- ・ グリーンインフラの推進
- ・ 市街地整備 2.0 の実現
- ・ 新型コロナウイルスがもたらす「新しい生活様式」



当地区の役割や奈良県域の建設に関する計画、社会的潮流等を踏まえ、まちづくりのテーマ及び6つのまちづくりの方向性を次のように決めました。

■まちづくりのテーマ

『奈良先端大学を中心に産学官民の連携による

“オープンイノベーションを創出”するまちづくり』

～最先端と自然・文化が共生する新たな時代の都市に向かって～

<メインテーマ策定趣旨>

学研高山地区では学術研究都市として多様な文化、学術、産業が集積するメリットを活かし、新たなイノベーションを持続的に生み出していくために、奈良先端大学を中心とし、大学や研究施設、研究開発型産業施設、官公庁、市民などが連携する仕組みを構築し、本格的なイノベーション拠点として「新たなイノベーションを創出するまちづくり」を推進します。

<サブテーマ策定趣旨>

けいはんな学研都市が目指す最先端の技術の集積と学研高山地区周辺の自然・文化が共生する「高山地区」ならではの研究環境で、新たな技術や価値を創出し、日本社会をリードする、また世界へ向けて発信するサイエンスシティを目指します。

■まちづくりの方向性

周辺クラスター地区との連携

精華・西木津地区や学研生駒テクノエリア等の周辺地区と連担、連携し、けいはんな学研都市の拡大中心地区を形成する。

産学官民共創によるイノベーションの持続的な創出

奈良先端大学を中心とした学術研究機関との機能連携によるオープンイノベーション創出の中核的拠点を形成する。

超スマート社会への貢献

IoT^{*}、ロボット、AI、ビッグデータ等の先端技術を活用した Society5.0 の実現や、SDGs、カーボンニュートラルへの貢献を図る。

農業イノベーションの創出

産業界と農業界の連携強化により、IoT 技術を活用し、都市農業の多様な機能を発揮させるスマート農業の推進や6次産業化による農業の高付加価値化を図る。

新しい生活様式（ニューノーマル^{*}）に対応したまちづくりの推進

サテライトオフィスやテレワーク^{*}、ワーケーション^{*}などの新しい働き方や、身近な環境での多様なニーズに応じたライフスタイルの実現を図る。

都市と自然環境の共生

グリーンインフラの活用による都市と自然環境が共生するモデル都市の形成を目指す。

